

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	おりーぶおりーぶ厚生病院前			公表日	2025年 3月 30日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定の基準は満たしたスペースを確保しています。	扉や柱があるため全体を見るためのスタッフの配置を考える必要があります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		指定の基準を満たした人員の配置をしています。	しかし、一人一人丁寧な対応をすることを考えると基準以上の人員は必要となります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関先には階段とスロープがあります。室内はフラットな状態で扉全てスライド式になっています。	特に改善はありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃しており、ビュラックス(次亜塩素酸)にて療育グッズやおもちゃ等を消毒しています。また、当日の活動内容が分かるようスケジュールを壁に貼っています。	特に改善はありません。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		着替えや集中して取り組みたい時。クールダウンをすることができる部屋を確保しています。	密閉された部屋ゆえ、クールダウン時にはスタッフ1名がとられてしまう。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に会議を行う時間を設けており、目標や評価等について各スタッフが必ず発信するようにしており適切に検討しています。参加が難しいスタッフへは書面にて共有しています。	発信は可能ですが、その先の振り返りと分析が課題です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ホームページにアップされた際は事業所でチェックし、内容を検討するとともに結果を共有し改善に努めています。	特に改善はありません。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		必ず月一回スタッフミーティングを実施し、業務改善や新しい取り組みを考えています。また、必要に応じてミーティングを実施することで課題に対して共通認識を持てるようにしています。	特に改善はありません。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今後第三評価について検討する予定です。	第三者評価は実施する方向で検討しています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人全体での研修や社外の研修に参加しています。また、必要に応じて事業所内で行う場合もあります。	事業所内でだれもが研修を行える力を持ち、職員のスキルを底上げする必要があります。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて支援プログラムが公表されています。事業所では毎月プログラムを作成し配布することで毎日支給内容が見てわかるようにしています。	公表はできていますが保護者の周知が薄いことが課題です。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		客観的視点で考え、保護者と面談を行い子どもの様子や課題について話し合いをします。内容を分析し個々に合わせた個別支援計画書を作成できるよう意識しています。	ニーズとデマンドを捉えるためにもアセスメントのとり方、深め方のスキルを身につけることが課題である。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議にて日頃の様子やできるようになったこと等の成長点、今後の課題、対応方法について話し合いを行っています。	こどもの最善の利益をしっかりと理解し、保護者の意向と子どもに対する客観的な視点で計画を立てることが課題である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援会議の記録や計画書に目を通してもらい共通認識を図り、また、大まかに担当を決めることで寄り添った支援ができるようにしています。	なぜこの計画が必要なのか、客観的な視点と特性に対する理解、個人と環境の相互関係を見ていく必要がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールを使用したり、発達検査のコピー等からも情報を得るようにしています。また、ケース記録や連絡帳、送迎時に様子を尋ねることで適宜アセスメントをしています。	特に課題はありません。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		活動を組み合わせっていますが、様々な特性を持つ個々に対して全て支援を行うのは難しいためそれぞれに合わせて工夫しつつ、子どもが主体的に取り組めるよう意識しながら支援内容を考えています。	子どもの将来を見越して必要となるスキルを計画の中に入れていく必要があります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		遊びや学びを取り入れたり、他の事業所と開催するイベント等企画案を各スタッフ出し合いながら検討しています。	特に課題はありません。

は 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育は毎日違う内容になっており、長期休みは午前と午後の2部制にしています。イベント開催するときは参加できない子どもがいらないよう一週間を通して行う意識しています。	特に課題はありません。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個々の障害特性に応じた個別療育と集団療育を組み合わせ楽しみながら本人が主体的に取り組めるよう設定し、さらに支援が必要な場合は専門的な支援を取り入れています。	特に課題はありません。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前にミーティングを実施し当日の利用者情報や送迎ルート、担当について確認、共有をしています。個別対応がある場合は他のスタッフの動きについても確認を行っています。	特に課題はありません。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後に様子を記録する時にスタッフで振り返り、共有をしています。会議が必要な場合は翌日に実施し、必要に応じて本部に指示を仰ぐこともあります。	特に課題はありません。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めているか。	○		共の様子や保護者からの連絡等を記録し、情報共有や支援会議の際に使用できるようにしています。記録を徹底することで支援の検討・改善に繋がっています。	検討はしているが検証はしていないので、支援のプロセスに対し日々検証をしていくことが課題である。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的に保護者との面談を行い課題や支援の見直しについて検討し、必要に応じて計画書に反映しています。新たな課題がある場合も適宜行っています。	特に課題はありません。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインに沿った基本活動を個別・集団療育にて複数組み合わせながら個々の特性に合わせて支援を行っています。	特に課題はありません。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の中で選択肢を用意し、自分の気持ちを伝えられるよう○・×や絵カード等を使用しながら自己決定を促すようにしています。	「あなたは どうしたい?」「どうしたらいい?」等、気持ちに寄り添いながら本人がわかる表現で自己決定ができるようにすることが課題である。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者と現場スタッフが一緒に参加しています。日程・時間によっては児童発達支援責任者のみの参加の場合もあります。	特に課題はありません。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要な関係機関との連携体制は整えています。学校との関係が保護者以外で多く、学校側より計画書の提出を依頼された場合は計画書を提出することで支援方法を共有しています。	相談支援専門員やサービス側からの計画書は提出していますが、学校から計画書はもらえません。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校表を確認したり、送迎時に双方の情報共有しています。緊急時は保護者同様学校から緊急メールが届くようになっています。	特に課題はありません。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて保育園、児童発達支援事業所と情報共有を行っています。書面にて確認ができる場合はコピーをさせてもらい適切な支援ができるようにしています。	多職種連携会議が必要な場合は相談支援専門員から会議に参加して欲しいと連絡をいただき参加しているが、発起人にはなっていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		サービス担当者会議に参加したり、情報共有の依頼がある場合は保護者の同意を得てから行っています。	特に課題はありません。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		子ども発達支援センターおーいぶと連絡をとり、必要に応じて支援方法や助言等をもらっています。	こども発達支援センターおーいぶは我がまちの中核的な役割があり、スーパーバイズや研修を行っているため日常的に関わりを持っている。同法人ゆえ線引きをすることが課題である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		散歩等で出かけた際に交流はありますが、交流会といったイベントは企画していないため今後検討していきます。	放課後児童クラブには人員的な課題も含め、他事業所を受け入れるようなゆとりはありません。学校で交流しているので良いと思う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会へは法人の代表者が参加しており、障害福祉サービス事業所連絡会へは事業所から参加しています。	特に課題はありません。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳、送迎、面談等で保護者と子どもの変化や日頃の様子、今後の課題を共有しています。	特に課題はありません。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		支援の仕方、声掛けの仕方など必要に応じて保護者に伝えたり外部での研修や講演会等の機会があればその都度情報の提供を行うようにしています。	法人何でペアレントトレーニングを行っているが、ペアレントトレーニングができるように各事業所の職員のスキルアップが課題である。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っています。また不明な点はその都度説明を行ったり、変更点がある場合はこちらから説明を行っています。	保護者の特性によっては筆談や録音、仮名をふる、外国籍には翻訳する等、形態別の対応が必要である。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		デイ、家や学校での様子を踏まえながら面談時に意向を確認した上で反映しています。	子どもの最善の権利とは何を指すのか、虐待防止研修や子どもの権利擁護も含め学びを深める必要がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書等を作成した書類を保護者に確認してもらい署名、同意を得てから支援しています。	支援内容について、なぜそのような方法が必要なのか、そのプロセスを通じて保護者にわかるようにかみ砕いて説明する必要がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		事業所内にて対応ができるように努めています。難しい場合は上司や子ども発達支援センターよりアドバイスをもらい対応等を行っています。	保護者の悩みについて深掘し、具体的な課題として知ることが必要である。氷山モデル等を用いながら、本人とその背景（家族も含め）を知る必要がある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		子どもの様子見学や参加型の参観日を設けています。保護者同士が顔を合わせる機会ではありませんが、保護者同士の関係づくり等は各自の判断に委ねています。	障害のある子どものきょうだい児については保護者同様に関わる必要があるが、デイサービスの児管内で関わると本来関わることが必要な利用者に時間が回せなくなるのが課題である。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		事業所内でできる限り当日に対応できるようにしていますが、すぐの解決が難しい場合は時間をもらい社内で検討後すぐに返答を行います。その後再発防止に努めます。	苦情が何故起こるのか、根本的な原因を必ず見つけさないと表面的な一時しのぎにしかならない。「なぜ」「どうして」を職員間で重要視し、再発防止に役立てることが必要です。
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月活動内容を記載したお便りを保護者へ配布しています。また、今年から連絡を円滑に行えるようSNS(LINE)を始めています。	特に課題はありません。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報となる書類は鍵付きキャビネットにて保管しており、送迎等で配布する書類等は人の目に触れない場所に置くように留意しています。	SNSを利用したやりとりについては、グループではなく個人と事業所のみとしているが、何らかの理由で流出しない保証がないことが課題である。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉の選択の仕方や伝え方、相性等配慮しながら子どもや保護者に合わせた対応をするようにしています。	特に課題はありません。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人にてフットサルや子ども食堂等運営していますが事業所内での交流は今後検討していきます。	特に課題はありません。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時の対応、感染症対応・対策等はマニュアルに沿って実施しています。マニュアルはスタッフ間で共有し、保護者へは契約時に伝えています。	特に課題はありません。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月必ず避難訓練の日を設けています。日常で起こりうる災害に対して適切な行動が取れるよう活動中やおやつ等の時間等で実施する場合があります。	特に課題はありません。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時にてんかん発作や服薬について確認しています。服薬については薬剤情報やお薬手帳をコピーしたり、予防接種等は口頭にて確認しています。	特に課題はありません。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事前にアレルギーの確認を行いデイでは提供しないようにしています。基本的に保護者の指示に基づいて対応しています。	アレルギーのお子さんですが、おやつのお友達とおやつを交換してアレルギーが出るケースもありますので、日々の活動の際に厳重な注意が必要です。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		初期消化の手順や防災グッズ等を準備したり、安全計画や災害時のマニュアルに基づいて安全に配慮しています。	特に課題はありません。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害によって避難場所と名前(伏字)を掲示したり、建物の中が安全と判断した場合はその場で待機する旨を伝えています。	特に課題はありません。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		スタッフ間で会議を行い、参加できなかったスタッフへ周知しています。同じことが起こらないようチーム内で検討、対策を考え再発防止に努めています。	一度ヒヤリハットに出した内容は二度と同じ内容が出ないよう、徹底した再発防止がひとつですが、似たような内容が再発していることが課題です。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待に関する社内研修があり、必要に応じて事業所でも行っています。必要に応じて社外研修に参加することもあります。	特に課題はありません。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		高速度が必要な場合は事前に保護者より同意を得ています。実際に行った場合は状況、拘束時間等の記録を取り、保護者に伝えるように手順を示しています。	特に課題はありません。	